



WASEDA University

新潟県燕市・社団法人つばめいと & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2025

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光……自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 現地調査の実施を含む対面・オンライン各型式のハイブリッドで進める課題解決プログラムです
- 市長をはじめ地域住民の方々に、直接ヒアリングする貴重な機会があります！
- グローバルエデュケーションセンター全学副専攻「地域連携・地域貢献」実践領域および実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラム（2単位相当）です（注意事項⑩要参照）。

テーマ

生産地・燕としての優位性を把握し、それを拡大する施策を提案せよ

江戸時代よりまちをあげて金属に関わる製品をつくり続けている燕市。現在、金属洋食器の国内シェアは 90%を超え、ノーベル賞の晩餐会や G7 で各国首脳へのお土産として燕市製品が採用されるなど、全国トップレベルの金属加工技術を誇ります。

そんな、「ものづくり」産業が売りの燕市では、人口減少や若年層の人口流出といった課題を抱える一方で、農業や製造業を中心とした「生産地」としての豊かさを実現する動きが広がっています。しかし、その価値や優位性が地域内外に十分に理解、発信されておらず、都市部（消費地）では「地方＝衰退」「支援対象」というイメージが根強く、地域の真の強みが評価されにくい現状です。

近年、米価上昇などにより農業所得が改善しつつあり、「生産地の豊かさ」を再評価する好機にあります。地域の生産者らの持つ強みを掘り起こし、都市の若者へ発信していくことで、燕市への関心と定着を促すことが期待されます。

本プログラムでは、学生が「地方＝衰退」、「地方創生＝支援の対象」という固定観念を離れ、生産地としての地方の価値を構造的に理解することを目指します。生産者の経済実態・暮らしの豊かさ・生産活動の動きを把握し、自治体がどのように「生産地の優位性」を広げる支援を行うべきかを提案していただきます。

燕市の魅力

燕市は新潟県の中心に位置し、上越新幹線の「燕三条駅」は東京から約 2 時間に到着します。

日本屈指の金属加工品の産地として有名ですが、その他にも、日本さくら名所 100 選に選ばれる「大河津分水桜並木」は、約 10km にわたり植えられたソメイヨシノが堤防沿いに咲き誇ります。また、江戸時代末期の禅僧であり、詩人・歌人・書家でもあった良寛が晩年を過ごし、その芸術性が円熟期を迎えた地でもあります。車で 30 分も走れば海も山も温泉もあり、産業から生まれた「背脂ラーメン」などのつばめっこソウルフードめぐり等、休日の過ごし方も様々です。2 月は新潟県全域で雪が多く降る時期ですが、燕市は比較的

雪の少ない地域であり、程よく雪のある生活、四季を楽しめます。



募集概要

募集期間	2025 年 11 月 21 日（金）～12 月 7 日（日） 23：59 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
応募条件	原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと
募集人数	2 チーム（10 名程度）
応募方法	1. 事前説明会（オンライン）【応募の際には参加必須】 日程：11/21（金）、11/27（木）、12/3（水） 12:30～12:50（全日程） ※参加・申し込み方法等、詳細は配信メール、GCC オフィス HP および Instagram でご案内しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記 3 日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※事前相談会（12:50～13:10／参加任意）も上記日程で実施します。 2. 事前説明会参加後、以下の手順もしくは右の QR コードのリンク先から応募 ① MyWASEDA にログイン ② お知らせ一覧から「地域連携ワークショップ 2025 春編」を検索 ③ 「地域連携ワークショップ 2025 春編応募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請 
選考方法	書類選考：結果通知は 2025年12月23日（火）までにWasedaメール にて通知します。
注意事項	① 当ワークショップは正規授業ではないため、成績評価・卒業単位の認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、燕市内となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ④ オンラインで活動する場合があります。その場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑤ 自己負担費用：往復交通費（自宅⇄現地集合場所）・食費等 <交通費目安> 東京駅～燕駅片道 9,240 円（新幹線/指定席、在来線） <宿泊先> つばめ産学協創スクエア（相部屋）4,000 円（3 泊 4 日・食事なし） ※但し、後日新潟県の制度利用により、後日交通費の半額補助を受けることが可能です。また、大学より地域連携ワークショップ活動助成金による補助があり、交通費、宿泊費の自己負担額は 10,000 円程度になる見込みです。 ⑥ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施される企業連携ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。また、同時期に実施する地域連携スタディツアーに参加が決定している場合も応募はできませんのでご注意ください。 ⑦ 当ワークショップは複数の地域（第 2 希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。当地域を第 1 希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第 2 希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑧ 早稲田大学の学生補償制度（傷害補償・賠償責任補償）に加入いただきます。 ⑨ ワorkshop実施日と重複する正規授業等を欠席した場合でも、公欠扱いとはなりません。 ⑩ グローバルエデュケーションセンター全学副専攻「地域連携・地域貢献」^(注 1) および実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。 注 1：<2026 年 3 月卒業予定で副専攻修了を目指される方> 認定手続きのスケジュールの都合上、副専攻の単位相当にはなりませんので、ご注意ください。 ⑪ ワorkshopでは連携先、大学がInstagram等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。掲載の際には個人特定されないよう十分注意いたしますが、あらかじめご了承ください。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※プログラム内容等は変更が生じる場合があります。
問合せ先	Office of the Global Citizenship Center（GCC オフィス）： rbso@list.waseda.jp ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール（公式日程）

授業等により、やむを得ず欠席／遅刻／早退となる可能性がある場合は、その日程と理由を応募の際にお知らせください。

	予 定		日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	事前調査期間	1/15（木） 17:30～20:00	・参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ ・自治体担当者から、課題およびテーマ設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明
②	交流会 @早稲田大学		1/19（月） 17:30～20:00	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認 ・チーム発表
③	対面グループワーク @早稲田大学		2/3（火）	※時間帯は 10:00～17:00 の間で、参加学生の都合を確認し決定
④	オンラインヒアリング （@zoom）		2/9（月） 2/10（火）	・現地調査に向けて、仮説検証等に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程は終日スケジュールを空けておくようにしてください。
【事前調査期間】 ・燕市やテーマに関する調査／情報収集などを行い、チームとしての仮説を立てる ・ヒアリングの希望先（オンライン・現地）、質問内容等を検討し、1/26（月）までに自治体へ提出				
⑤	現地フィールドワーク @燕市【3泊4日】		2/15（日） ～2/18（水）	・燕市長との懇談および関係者の方々へのヒアリングを実施予定 ・燕市内の該当施設などを訪問
⑥	対面グループワーク @早稲田大学	追加調査期間	2/27（金）	・質問会議／中間報告会前にグループワーク ※時間帯は 10:00～17:00 の間で、参加学生の都合を確認し決定
⑦	中間報告会 @早稲田大学		3/5（木） 14:00～16:00	・提案内容の報告 ・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定
⑧	対面グループワーク等 @早稲田大学		3/6（金） 10:00～12:00	・中間報告会での指摘を踏まえてグループワーク等
⑨	プレ報告会 @早稲田大学		3/12（木） 14:00～16:00	・最終報告会に向け発表練習 ※報告会後はグループワーク用に会場開放予定
【追加調査期間】 ・現地フィールドワークや中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえ、提案の再検証およびブラッシュアップ				
⑩	最終報告会 @早稲田大学		3/23（月） 14:00～16:00	・市長など自治体関係者や地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約 2 時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）を実施するため、解散時刻は 17:00 頃となります。

※上記公式日程以外でも、必要に応じてチーム内で相談・日程調整をし、自主的に活動（ミーティング・グループワーク・追加ヒアリング等）の上、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
↓
 - 事前調査：
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかリスト化
↓
 - 現地調査・ヒアリング：
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
↓
 - 最終提案資料作成：
現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
↓
 - 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション
- 学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

- 一番学べたことは、「人と関わることは面白いことである」ということです。（商学部 3 年）
- チームの仲間と本気で頑張れたワークショップでした。かけがえのない経験ができてとても幸運でした。（文学部 1 年）
- ワークショップ期間には、チームのメンバーだけではなく本当に様々な人と関わるできるので、自分の今までの価値観にとらわれずに新しい視点を持つことができると思います。（人間科学部 2 年）
- 今回のワークショップの参加を通して、もっと直接的な形で地域を開発したり企画したり運営したりし、より地域と身近なところで地域の事を考えていくということも魅力的だと感じた。（法学部 1 年）

チームメンバーとの関わりを通して

- チームのみんなが意見を出し合い、尊重し合うことで自分 1 人では導き出せないような提案ができることを学びました。（社会科学部 1 年）
- 多様な考え方や価値観があることを肌で感じることで、相手の主張や意見を頭ごなしに否定することなく受け入れ、自分の中で検討することで、建設的な議論が出来るということが改めて学びました。（文化構想学部 2 年）
- チームメンバーの一人一人の視点や考え方に触れ、自分にはまだない力や柔軟さを学ぶと同時に、自分にしかない視点の大切さにも気づくことができました。（創造理工学部 2 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 私たち若者がアクションを起こせば、応援や協力をしてくれる方もいて、地域を一緒に変えていくことができる可能性があることを大いに日秘めていると実感できた。（文学部 1 年）
- 自分の地元への、地域貢献や地方創生を考えてみようと思えるようになった。（教育学部 2 年）
- 地域課題の解決には単に施策を提案するだけでなく、現場の状況や関係者の多様な視点を踏まえ、柔軟かつ実践的なアプローチが必要であることを強く認識しました。（人間科学部 3 年）
- 「地域貢献」「地方創生」という言葉について漠然としたイメージしか持つことができいていませんでしたが、このワークショップへの参加を通して、その地域について自分事として考え、継続的に関わることが地域貢献に繋がるのではないかなと思うようになりました。（基幹理工学部 2 年）